

# タイトル

クラス：1  
学籍番号：123ABC  
氏名：苗字名前

## 1 いろいろと試す

### 1.1 シンタックスハイライト

ちゃんとできる。カスタマイズも楽。

test あああ.html

```
<div class="theorem">  
  <div class="theorem-heading"></div>  
  
  数列  $\{a_k\}$  について考える。  
</div>
```

インラインのコードは `こんな感じ、aieuo` になる

### 1.2 囲み枠

- 例 1.1. 

数列  $\{a_k\}$  について考える。
- 例 1.2. 

数列  $\{a_k\}$  について考える。
- 例 1.3. 

数列  $\{a_k\}$  について考える。

ちゃんと番号がインクリメントされている。

### 1.3 囲み枠続き

- 例 1.4. 

数列  $\{a_k\}$  について考える。

## 1.4 番号付き数式

`$$~$$` では含まれた部分に  $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$  で使用される数式を書くことができる。自動で数式番号が付与される。`h2` レベルの見出しごとに、カウンタがリセットされる。数式番号の参照はまだ実現できていない。こちら<sup>1</sup>にある方法を用いると、数式の前後にタグを入れなければならない、面倒である。

### texのサンプル

```


$$\sum_{k=m}^n a_k = a_m + a_{m+1} + \cdots + a_n$$


$$(a+b)^n = \sum_{k=0}^n \binom{n}{k} a^{n-k} b^k$$


$$\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = |\mathbf{a}| |\mathbf{b}| \cos \theta$$


$$\int x^n dx = \frac{1}{n+1} x^{n+1} + C \quad (n \neq -1)$$


```

$$\sum_{k=m}^n a_k = a_m + a_{m+1} + \cdots + a_n$$

$$(a+b)^n = \sum_{k=0}^n \binom{n}{k} a^{n-k} b^k$$

$$\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = |\mathbf{a}| |\mathbf{b}| \cos \theta \quad (1.1)$$

$C$ を積分定数として

$$\int x^n dx = \frac{1}{n+1} x^{n+1} + C \quad (n \neq -1)$$

## 1.5 表のサンプル

`<figure>` 要素のどこに `<figcaption>` 要素があるのかを用いて、表と図を区別する。こちら<sup>2</sup>とこちら<sup>3</sup>を参照すること。

- 一つ目の場合：表として扱われる
- 一番最後の場合：図として扱われる

表 1 銅線の抵抗値の温度変化

温度 $t(^{\circ}\text{C})$	19.0	24	28	30	19.0	24	28	30
抵抗 $R_{ab}(\Omega)$	7.3	7.4	7.5	7.6	7.3	7.4	7.5	7.6
抵抗 $R(\Omega)$	7.2	7.3	7.4	7.5	7.2	7.3	7.4	7.5

## 1.6 図のサンプル

次のような記法を使用します。

```
! [銅線の抵抗値の温度変化](assets/1_銅線.png){.fig #fig-Cu width=500}
```

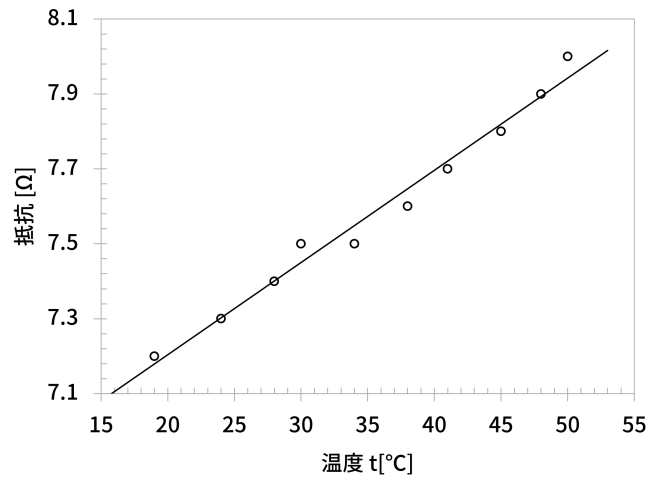


図1 銅線の抵抗値の温度変化

- `.fig`
  - 図のためのクラス
  - おそらく、`theme-academic` で定義されていたはず
- `#fig-Cu`
  - 図のid
  - 一意にする必要がある
  - 別の場所から図のidを用いて参照できる
    - 例
      - 「`[](#fig-Cu){.fig-ref}`」のように使用する
      - 「図1」のように使用する
    - `.fig-ref` は、このリポジトリで定義したCSSクラス
    - 図に振ったidを、aタグを介して取得しているらしい
    - 図の番号は自動で挿入される

## 1.7 番号付き数式の続き

h3の見出しが変わっても、数式番号はそのままになっている。

$$x = \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a} \quad (1.2)$$

$$e^{i\pi} + 1 = 0 \quad (1.3)$$

## 1.8 番号無し数式

`<div class="no-equation-counter"></div>` で囲うことで、その中にある数式には数式番号を表示させないようにできる。このとき、数式番号は増加しない。

$$\frac{\pi}{4} = \sum_{n=0}^{\infty} \frac{(-1)^n}{2n+1}$$

次の数式は、`<div class="no-equation-counter"></div>` で囲んでいないので、番号が表示される。

$$\int_{-\infty}^{\infty} e^{-x^2} dx = \sqrt{\pi} \quad (1.4)$$

## 2 段落 2

章をまたぐと、数式や「例」の番号がリセットされる。

例 2.1.

マクスウェル方程式のうち、ファラデーの誘導法則（微分形）について考えてみよう。

$$\nabla \times \mathbf{E} = -\frac{\partial \mathbf{B}}{\partial t} \quad (2.1)$$

もちろん、枠の中に数式を入れることだってできる。

- 
1. <https://gihyo.jp/article/2025/02/vivliostyle-05-2#ghd7AWAtwX><sup>\*1</sup>
  2. <https://gihyo.jp/article/2025/02/vivliostyle-05-2#gh2Xq8vaNb><sup>\*2</sup>
  3. <https://gihyo.jp/article/2025/02/vivliostyle-05#ghfbEpozht><sup>\*3</sup>

- 
1. <https://gihyo.jp/article/2025/02/vivliostyle-05-2#ghd7AWAtwX>
  2. <https://gihyo.jp/article/2025/02/vivliostyle-05-2#gh2Xq8vaNb>
  3. <https://gihyo.jp/article/2025/02/vivliostyle-05#ghfbEpozht>